

八峰CS通信

平成29年度
第19号
H30/1/19 文責
CSディレクター
川尻

八峰町のよさを見直した第2回熟議



1月9日、ファガスを会場に八峰町学校運営協議会主催の第2回熟議が開催され、町ぐるみで八峰町の子どもたちを育てるために、活発な話し合いがなされました。
森田新一郎会長のあいさつに続き、第1回熟議の成果と今回の議題について確認しました。
議題 「学習・生活についての共通実践事項」

では、八森小鈴木洋一校長から校長会等で作成した原案が提案され、内容等について協議しました。
「子どもの約束は、保護者・地域のみならずも頑張る必要がある」・「最重要内容と具体的な実践内容のつながり」・「起床時刻や家庭学習時間は適切か」・「家庭・地域でのコミュニケーションが大切」などの意見がありました。

今後、原案を修正し、学校運営協議会でさらに検討することにしました。
協議 子どもたちに伝えたい八峰町のよさとして、特色ある体験活動で、6つの学校別グループ

で意見を出し合いました。
「海・山・川など自然が豊富」「世界遺産や2つの県立自然公園」「伝統芸能や行事」「米・あわび・菌床しいたけ・生薬など県外にも誇れる農産物や産業」「人のやさしさ・温かさ」など、様々なよさが出され、「白神体験センター・ジオパーク・ポンポコ山・母谷山・高峰山・二ツ森・留山・漁港・水沢ダム・桃源郷」などの場所、「そばづくり・米づくり・豆腐づくり・パンづくり、梨の収穫」など農業・産業体験「神輿の滝浴び・石川の



「楽しいことがないならつくる・マイナスの発想を大切に・もっとたいない精神で」といったキーワードなどの指導助言をいただきました。
今回の熟議では、特に、子どもたちに八峰町のよさを伝えるために、大人（教職員や地域住民）に八峰町のよさを見直して欲しいと思い、テーマを設定しました。参加の皆さんから、私が予想していた以上の八峰町のよさや体験活動が発表されました。振り返りに「当たり前と思っていたことのように感じていた」という感じ

奴おどり・駒おどり・鹿嶋まつり」など伝統芸能や文化の継承、意外なところで「強風を一身に浴びる体験・夜に真っ暗な光のない体験・なかなか通じない秋田弁体験」など様々な体験活動が紹介されました。
最後に、第1回熟議で講話をいただいた金俊紀氏から「八峰町CSは町ぐるみで組織しており、先進的な事例であることに自信をもつて取り組んで欲しい」という励ましや「八峰町のよさを子どもたちに考えさせる・公民館を活用し学社連携で取り組む」などの具体的な内容、「楽しいことがないならつくる・マイナスの発想を大切に・もっとたいない精神で」といったキーワードなどの指導助言をいただきました。

想がありました。大人が当たり前と感じているよさを含め、子どもたちに八峰町のよさを学校で、家庭で、地域でしっかりと体験させてあげたいと思います。それが、コミュニケーション

米作りでお世話になったJA青年部にカレーを振る舞い感謝の会(峰浜小)

1/2成人式で願いを書いた絵馬を奉納「大人になつたら...」(峰栄館)

冬休み、真剣に自習に取り組むパワーアップスクール祈！高校合格(八峰中)

紙飛行機の飛ばし距離を競う「かもめ」チビッコ冬のお楽しみ会(ファガス)

二ティ・スクールの役割の一つだと思えます。最後に、私の進行の見込み違いで、大幅に時間がかかってしまったことをお詫びします。次回から2時間以内にします。

